

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2017年7月10日～2017年7月16日】

[当地報道をもとに作成]

平成29年7月25日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ロシア人観光客に対する襲撃事件(11日)

・「アブハジア共和国政府」の発表によれば、11日、ソフミの30km西方、グダウタ地区アルサウリ(プリモルスコエ)村にて、武装した2名がロシア人の2家族を襲撃し、男性1名を殺害、女性2名および子供4名を人質とした。人質はその後解放された。

・翌12日、ロシア外務省は、ロシア人観光客に対する襲撃事件について懸念を表明する声明を発表。声明は、「アブハジアの法執行機関が可及的速やかに犯人を見つけ出し、裁くよう」期待しており、「ソフミの露大使館は捜査を注視している」と述べている。

・13日、「アブハジア共和国検察」は、容疑者は既に拘束されたと発表。

【南オセチア】

▼「南オセチア共和国外相」のモスクワ訪問(10日)

・メドエフ「南オセチア共和国外相」がモスクワを訪問し、ラヴロフ露外相と会談。「ラ」露外相は、ロシアと南オセチアは、とりわけジョージアのNATO加盟の試みがもたらしている南コーカサス地域の不安定な状況について懸念を抱いていると発言。

▼第79回IPRM会合(11日)

・エルグネティにて第79回IPRM会合が行なわれた。長期拘束者、無人航空機の侵入、治安関係者の侵入の疑い、行政境界線付近の農地の耕作、標識の設置などの問題について議論。拘束事案の件数が増えていることに懸念が表明された。

2. 外 政

▼OSCE議員総会年次会議(9日)

・ミンスクで行なわれていたOSCE議員総会年次会議が共同宣言を採択。宣言は、ジョージアについて、「国際法の規範と原則に基づいた紛争の平和的な解決に向けたプロセスの欠如」を遺憾とし、占領下にあるジョージアのアブハジア・ツヒンヴァリ地域/南オセチアの人道・治安状況について懸念を表明している。また、2008年8月12日の6項目の停戦合意の「完全な履行」および両地域に対する人道支援の自由なアクセスを求めている。

▼愛国者連合議員のモスクワ訪問(11日)

・愛国者連合の3名の議員(ロミア議員、マルシャニア議員およびチヘイゼ議員)がモスクワを訪問し、カラシ

ニコフ露国家院CIS・ユーラシア統合委員会委員長との会談を行なった。双方は非公式の協力グループを設置することで合意。露国家院の報道発表によれば、双方は露・ジョージア関係の復活の見通し、NATO・ジョージア協力およびアブハジア・ツヒンヴァリ地域の現状について議論した。

・会談後、マルシャニア議員は、愛国者連合は同様の非公式グループの設置をジョージア国会に提案すると述べた。また、アブハジアおよび南オセチア側との「直接の対話」にも言及し、ロシアがこれを支持するよう望むと述べた。ロミア議員は、「我々は新しい対話の枠組みとして、ジョージア・ロシア・NATOの三者対話をロシア側に提案したい」と述べた。

・コバヒゼ国会議長は、愛国者連合議員のモスクワ訪問を「ゲリラ的訪問」と批判し、訪問は「ジョージア国会とは一切関係ない」と述べた。

▼第9回東方パートナーシップ非公式対話(11日)

・キニシヨフで行なわれた第9回東方パートナーシップ非公式対話にジャネリゼ外相が出席。11月に予定されている東方パートナーシップ首脳会議に向けた取り組みについて議論された。

・共同記者会見で「ジャ」外相は、東方パートナーシップのイニシアチブからジョージアは「多くの成果を得た」として、「我々はより深い統合、EUへの正式な加盟に関心がある」と述べた。

・「ジャ」外相は、モルドバのフィリップ首相、カンドゥウ議会議長、ガルブル外相と会談。

▼第14回国際会議「ジョージアの道」(13日-14日)

・バトゥミにて第14回国際会議「ジョージアの道—地域の安定の保障」が開催され、ジョージア、EU諸国、東方パートナーシップ諸国の高官らが参加。欧州の安全保障体制の構築、エネルギー安全保障、プロパガンダ・移民に対する取り組み、東方パートナーシップ諸国との連合協定・DCFTAなどについて議論。

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、アブハジア・南オセチアの状況およびジョージアの欧州との統合について演説し、「ジョージアは欧州から恩恵を得るだけでなく、欧州のプロジェクトへ貢献することもできる」と強調。

・クヴィリカシヴィリ首相は、国内改革、EUとの査証自由化、連合協定およびDCFTAの実施、経済協力、エネルギー安全保障などについて演説。

・シェフチョヴィチ欧州委員(エネルギー担当)は、「EUとの経済的および政治的な関係の強化」に対するジョー

ジア政府の努力を称賛し、ジョージアを「欧州のエネルギー安全保障における主要なパートナー」と呼んだ。EU エネルギー共同体へのジョージアの加盟を歓迎。

3. 内 政

▼エネルギー相、副首相の任命(12日)

・与党のトビリシ市長選挙候補者となったカラゼ副首相兼エネルギー相が6日に辞任したことを受け、クヴィリカシヴィリ首相はエロシヴィリ・エネルギー第一次官をエネルギー大臣に、また、ジャンリゼ外相を副首相に任命した。

▼「ジョージア人の行進」(14日)

・トビリシ市中心部で、不法移民の送還、入国管理法の厳格化、外国人の在住許可に対する制限、市民団体に対する外国からの資金提供の禁止などを求め、約2千人が「ジョージア人の行進」と称したデモ行進を行なった。主催者の一人はブレガゼ元在外ジョージア人問題担当国務次官。クヴィツァニ議員（愛国者連合）も参加した。
・6月29日にデモ行進の実施を発表した際、「ブ」元次官は、イラン人、アラブ人、アフリカ人ら不法滞在者にジョージアを去るよう求め、「我々は外国人犯罪者を一掃する」と発言。また、TVのインタビューに対し、デモは「新たな民族解放運動の始まりである」と述べた。

・同日、南オセチア行政境界線付近のベルシュエティ村では約60名の活動家が、「ジョージア人の行進」に対抗し、「我々の主要な問題がロシアによる占領であることを同胞や外国のパートナーらに示す」ためにデモを実施。主催者の一人は、我々はいかなる暴力、同性愛嫌悪、外国人嫌悪からも距離を置くと述べた。

4. 経 済

▼経済・持続的発展相のトルコ訪問(10日-11日)

・ガハリア経済・持続的発展相がイスタンブールを訪問。第22回世界石油会議に出席し、トルコのユルドゥルム首相、ゼイバクチ経済相らと会談。
・「ゼ」トルコ経済相との会談では自由貿易協定の拡大と二国間貿易の成長などについて議論。

▼欧州投資銀行の融資(13日)

・バトゥミにて、道路インフラの整備を目的とした欧州投資銀行(EIB)の250百万ユーロの融資に関する合意に、クムシシヴィリ財務相、アラヴィゼ地方発展インフラ相およびフダク EIB 副総裁が署名。ジョージア政府の2017~2020年の整備計画で決定された253kmの建設・修復に使用される。
・EIB はヴァルドニリおよびエングリ水力発電所の改修に対する支援も3.5百万ユーロ増額。